

大楠公だいなんこう
(徳川景山)とくがわけいざん

豹死留皮豈偶然 湊川遺跡水連天
人生有限名無盡 楠氏精忠萬古傳

豹ひょうは 死しして 皮かわを 留とどむ 豈あに 偶ぐう然ぜん ならんや

解説 大楠公、楠木正成の精忠を歌ったもの。

湊みなと川がわ

湊みなと川がわの 遺い跡せき 水みず 天てんに 連つらなる

語釈 ※豹死留皮Ⅱ豹のような禽獣すら死後に美しい斑紋のある皮を残す、まして人は美しい名を後世に伝えなければならぬという意。※豈偶然Ⅱどうしてその美名が実なくして得られようか、得られるものではない。
※湊川遺跡Ⅱ正成戦死の遺跡が摂津の湊川にある。
※有限Ⅱ人の一生には限りがある。

人じん生せい 限かぎり 有あり 名なは 尽つくる 無なし

通釈 あの猛獣の豹ひょうでさえも死んだ後のちに、美しい皮を残す。まして人間が死んで美名をこの世に留めるのは偶然である

楠なん氏しの 精せい忠ちゆう 万ばん古こに 伝つとう

うか。決して偶然なことではない。忠義を全うすれば、死後その名は永く人に記憶されて、いつまでも世に残るのである。南朝の忠臣・楠木正成公の戦死を遂げた湊川の遺跡に来てみれば、川の流れがはるかに遠く天に連なっている。人の生涯には限りがあるが、立派な人物の名前は川の流れるように尽きないのであって、楠公の純粹な忠義は、何時までも、わが国民の間に伝えられることであろう。